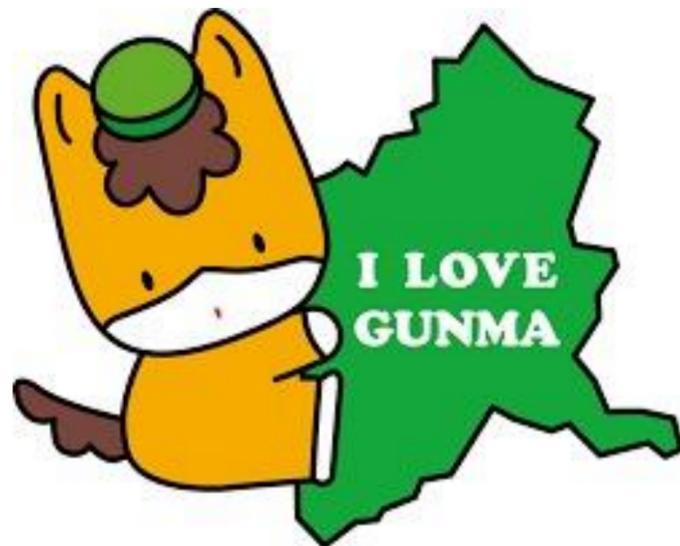


問題解決プロジェクト

「若者はなぜ群馬県を出ていくのか？」
～高校生3年生からみる群馬県の未来調査～

橋本 万梨奈、大澤 善康、茂木 寛和、後藤 悦子

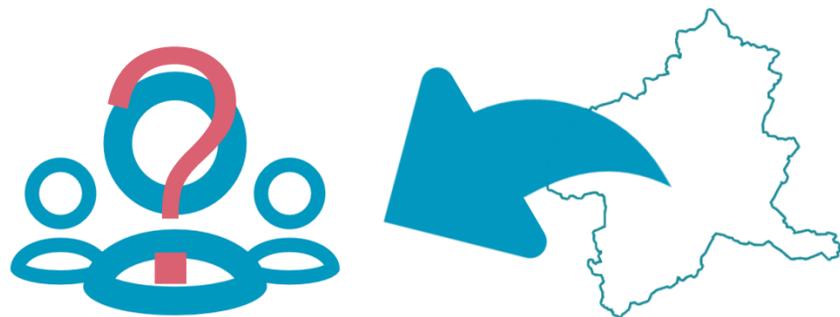


発表概要

テーマ

群馬県内の高校生が高校卒業後に群馬県から出て行ってしまいう
流出現象について**進学に着目**して
アンケート調査の結果から分析

高校を卒業した若者はなぜ、群馬から出て行ってしまうのか？
どんな高校生が流出しやすいのか？



発表概要

結果

流出志向が高い高校生は

1. 大学・大学院志望
2. 私立文系志望



1. 女子の方が県内志向の割合が高い
2. 地域愛着度と県外流出の関連は薄い

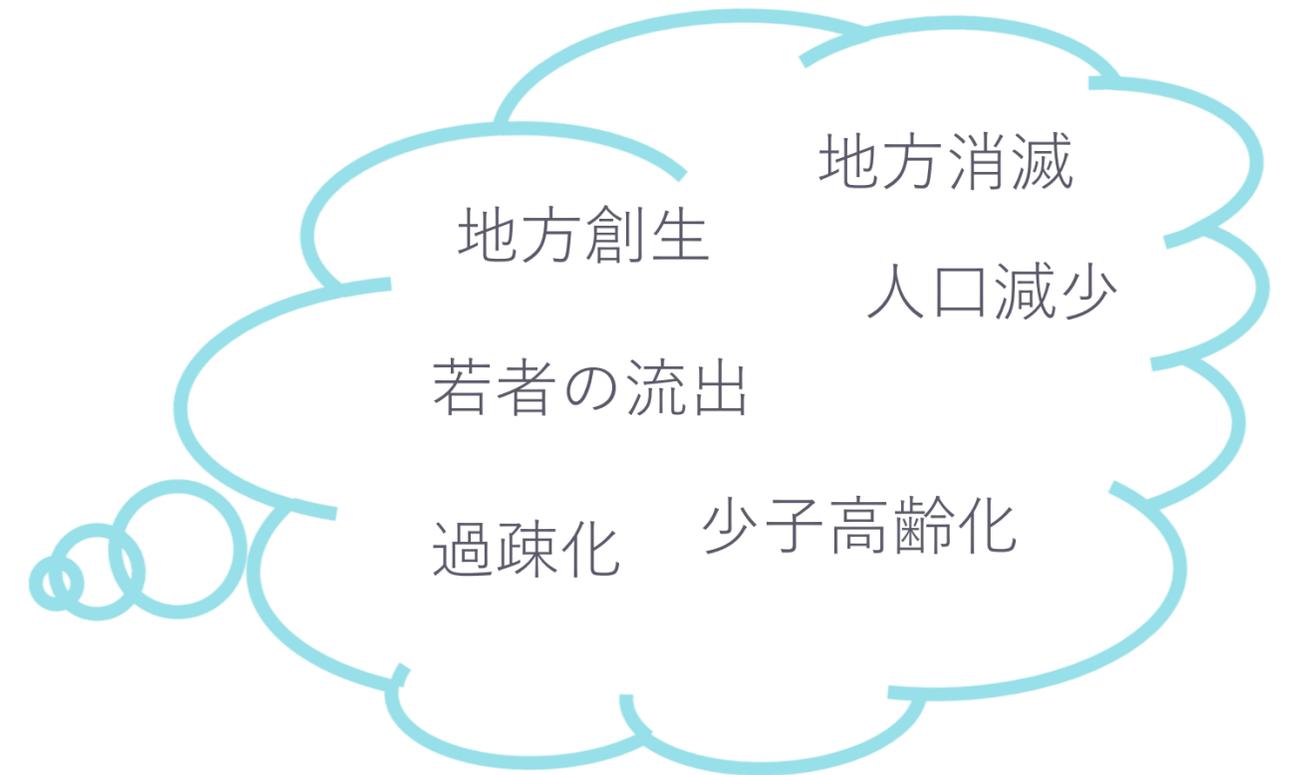
という特徴があることが分かった

もくじ

1. 高校生の県外流出の現状
2. アンケート調査概要
3. アンケート調査結果分析
4. まとめ

高校生の県外流出について

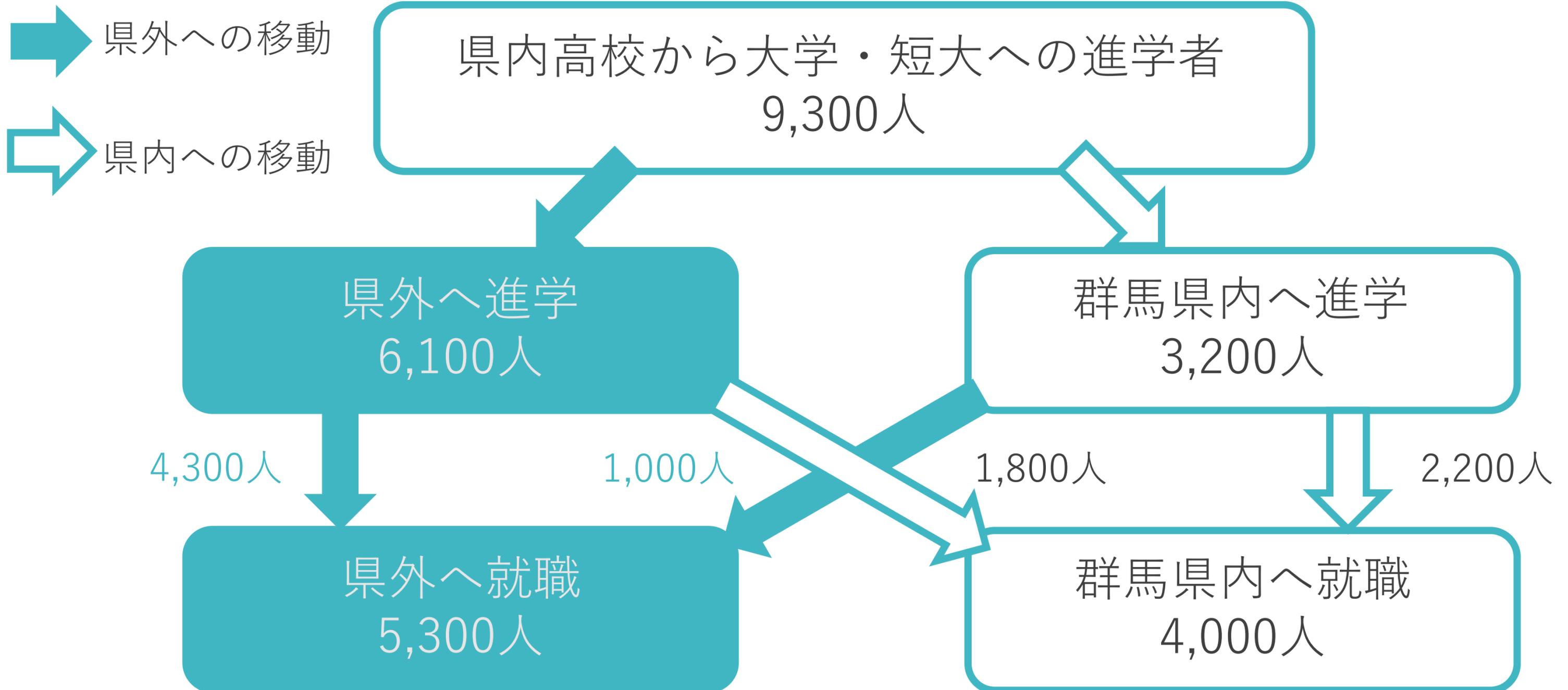
日本全国的に
地方の人口減少について問題視



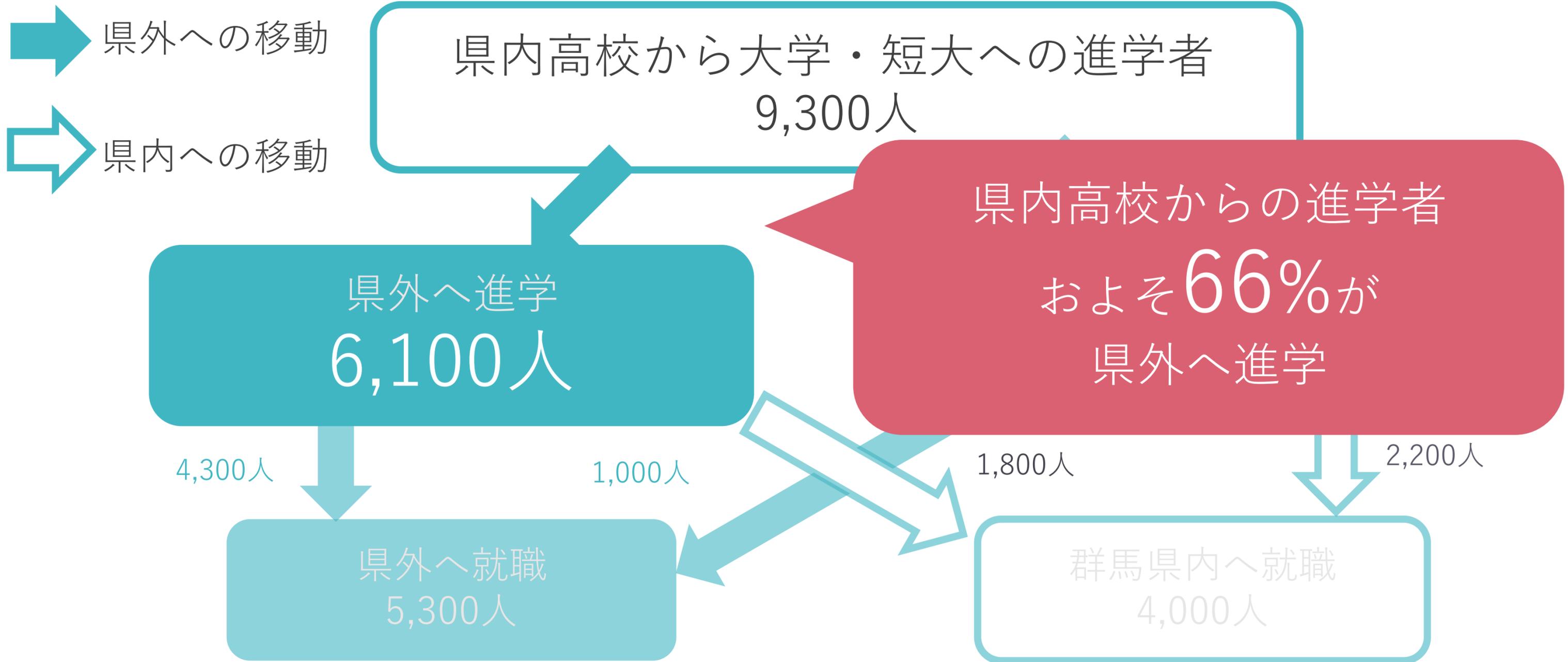
そもそも

本当に群馬県の高校生は県外に流出しているのか？

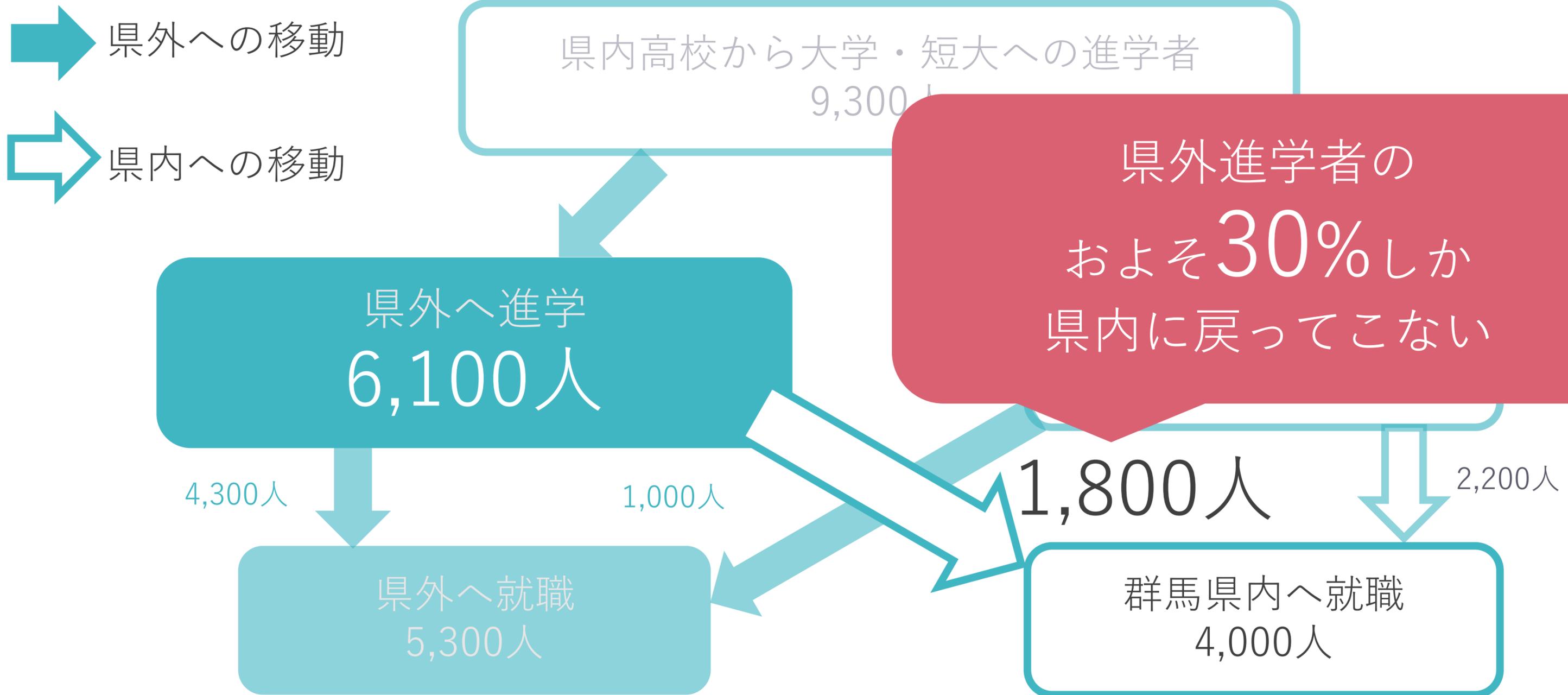
群馬県の高校生、県外流出数の現状



群馬県の高校生、県外流出数の現状



群馬県の高校生、県外流出数の現状



群馬県の高校生、県外流出数の現状

群馬県の高校生、県外流出の現状は非常に深刻

高校卒業段階で66%の進学者が県外へ
その中から大学卒業後に
群馬県へ帰ってくるのは30%程度



では一体

どんな高校生が県外に流出しているのか？

アンケート調査の結果から分析して探って行きます

アンケート調査概要

- アンケート名 【群馬県の未来を展望する】
高校3年生からみる群馬県の未来調査
- 実施時期 2017年9月
- 調査実施者 群馬大学社会情報学部・上毛新聞社
- 調査対象 群馬県内高等学校（中央中等を含む）
- 方法
1 高校あたり40部の質問紙を送付し、高校側に高校3年生の任意の1クラスを選択してもらい調査を実施
- 送付数と返信数 返信率 **91.8%**（送付85校3,400部、返信78校2,864部）



アンケート調査概要

今回アンケートの中から分析に使用した質問の概要

- 高校を卒業した後、進学または就職を県内と県外どちらでしたいと思っているか
- 現時点でどの学校まで進学したいと思っているか
- 進学希望先は国公立・文系、国公立・理系、私立・文系、私立・理系のどれに当てはまるか
- 住んでいる市町村についてどう思っているか

調査結果分析もくじ

1. 進路別県外流出志向度
2. 県外流出傾向の男女差
3. 文系理系志向と県外流出
4. 地域愛着と県外流出



進路別県外流出志向度

問題提起

進路ごとに県外流出志向は違うのか？

高校卒業後に就職または、どの学校まで進学希望か
(大学・大学院、短大、専門など)によって
県内・県外へ就職・進学を希望する影響度を考える。



進路別県外流出分析結果

県内県外志向と希望進路のクロス集計表

P<0.05

	就職	専門学校	短大	大学	大学院	その他
県内	89.3%	69.0%	74.7%	36.4%	14.1%	23.5%
県外	7.4%	25.5%	17.6%	52.8%	71.2%	58.8%
未決定	3.3%	5.5%	7.7%	10.8%	14.7%	17.6%
合計	100.0% (579)	100.0% (565)	100.0% (91)	100.0% (1381)	100.0% (191)	100.0% (17)

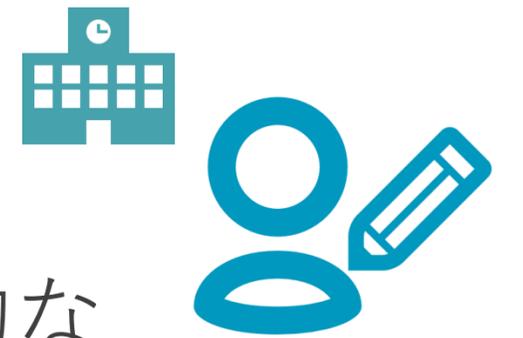
進路別県外流出志向度結論

大学や大学院まで進学を希望する学生は、
県外の学校を希望する

考えられる原因

大学以上の進学を希望している学生は、将来に向けて専門的な分野の習得を希望している。

⇒ 県内で専門的な学問を習得できる選択枠が狭いのではないか。

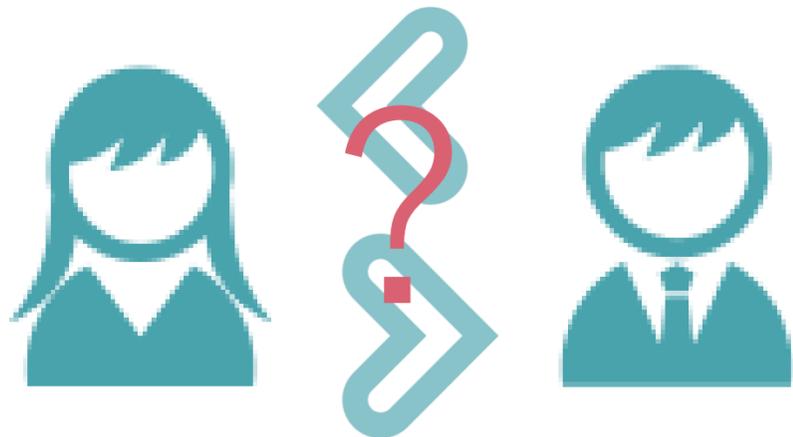


県外流出傾向男女差

問題提起

進路先や県内・県外の選択において、男女差があるのか？

進路先選択、県内・県外の選択に
男女の差の影響はあるのかを探る



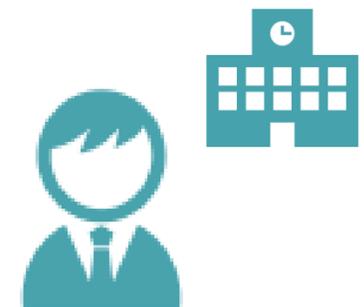
流出傾向男女差分析結果

希望進路先と男女のクロス集計表

P<0.05

	就職	専門学校・短大	大学・大学院	合計
女子	19.3%	27.5%	53.3%	100.0% (1485)
男子	22.2%	18.7%	59.1%	100.0% (1326)

男子の方が大学・大学院志望の割合が多い

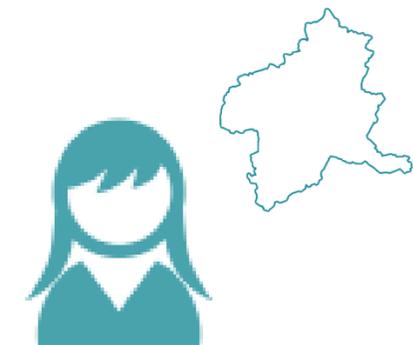


流出傾向男女差分析結果

県内県外志向と男女のクロス集計表

	県内	県外	未決定	合計
女子	56.0%	37.4%	6.6%	100.0% (1485)
男子	51.0%	38.7%	10.2%	100.0% (1326)

女子の方が県内志向の割合が多い

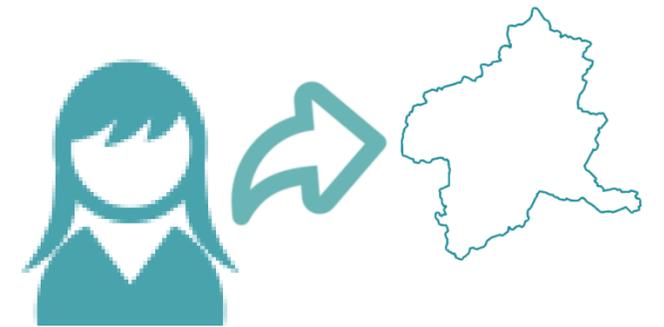


流出傾向男女差結論

女子の方が県内志向の割合が高い

考えられる原因

大学・大学院志望は男子の方が割合が高い
⇒ 大学・大学院志望の方が流出傾向にあるので
女子の方が県内寄りになった

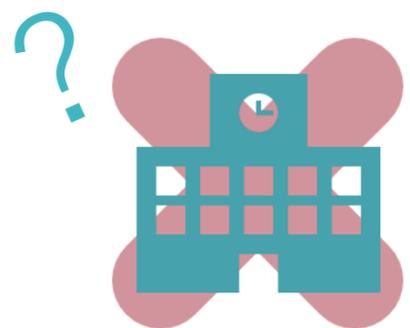


文系理系と県外流出

問題提起

希望の学問領域の進学先が無いから群馬県から出て行くのか？

希望する進学先（国公立文系・理系、私立文系・理系）
と県内・県外の選択を大学・大学院進学希望の人のみで
クロス集計し、希望する進学先がもたらす影響度を考える。



文系理系と県外流出分析結果

県内県外志向と文系理系志向のクロス集計表

P<0.05

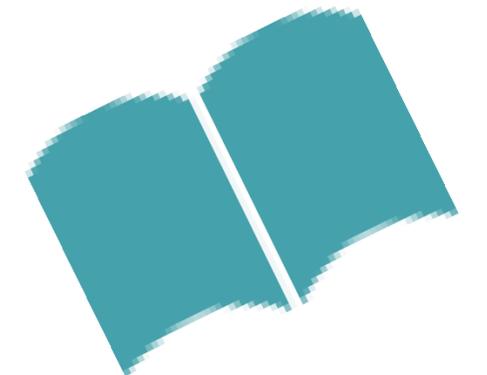
	国公立文系	国公立理系	私立文系	私立理系
県内	40.4%	33.6%	22.2%	42.6%
県外	45.7%	51.4%	69.8%	51.1%
未決定	13.9%	15.0%	8.0%	6.3%
合計	100.0% (431)	100.0% (420)	100.0% (463)	100.0% (237)

文系理系と県外流出結論

私立文系進路希望は特に県外流出志向が強い

考えられる原因

県内大学の学問領域の偏在(大学の数が少ない)
東京は大学の数も多く様々な学問を学べる



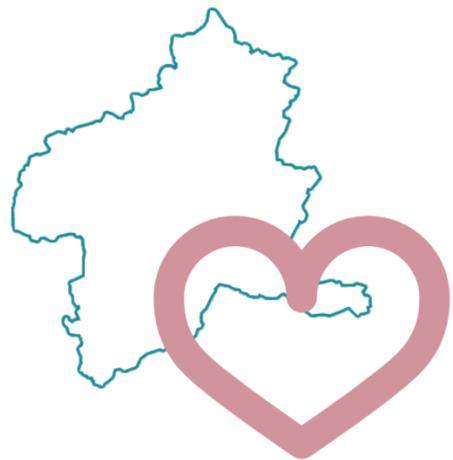
大学概況

東京都…… 137(国立：12、公立：2、私立：123)
群馬県…… 13(国立：1、公立：4、私立：8)

地域愛着と県外流出

問題提起

県外流出志向と群馬県への愛着は関係があるか？



アンケート調査の13項目の質問から地域に対する好感度(=愛着)を数値化、その数値から地域への愛着が県外流出にもたらす影響度を考える

分析方法

愛着と県外流出の関連を調べるために対応のないt検定で分析

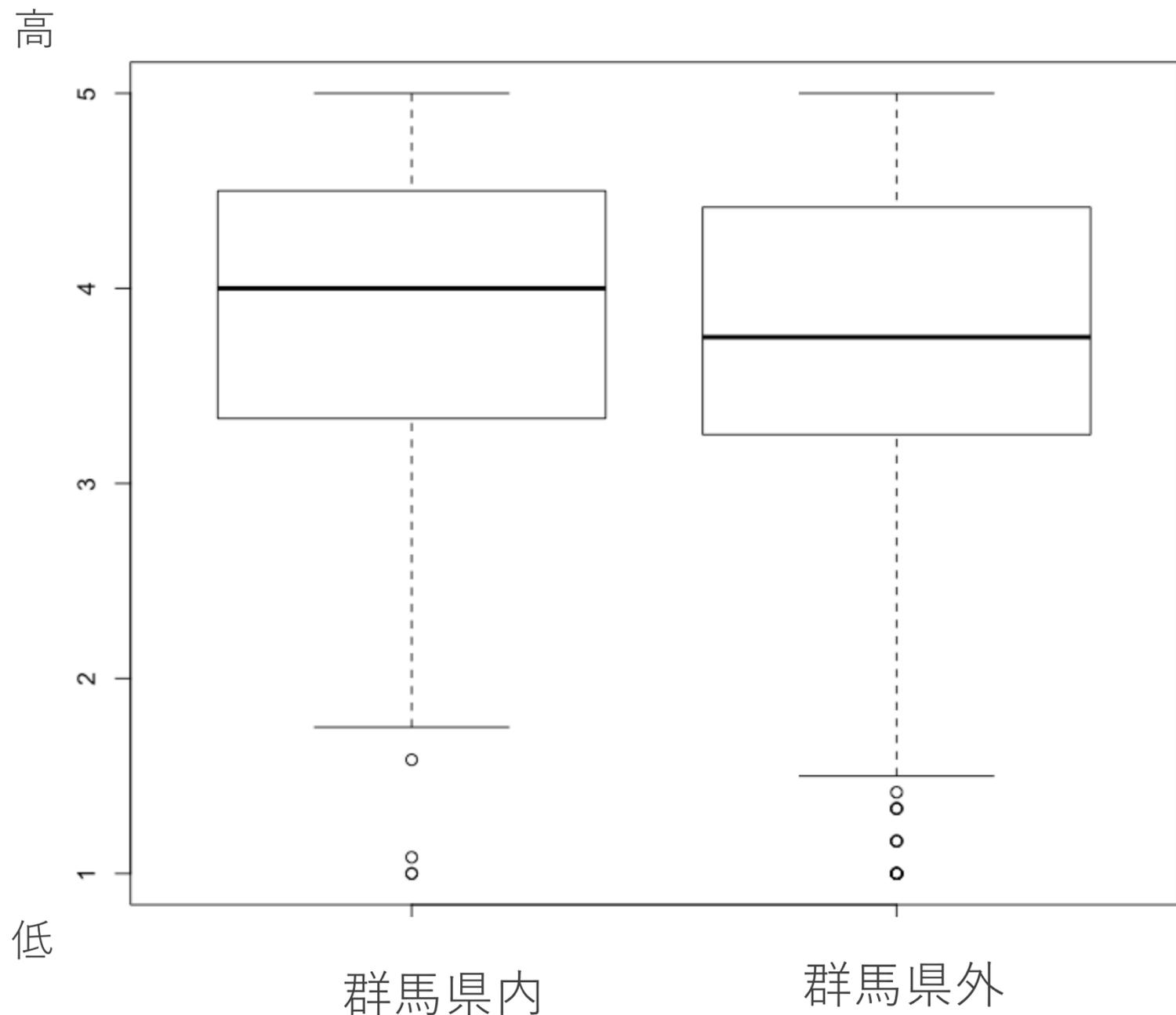
t検定とは

比較する対象が二つあり、それぞれの平均に差があった場合、それが偶然なのか意味のある差なのかを数値で明確に判定するもの

今回は地域愛着13項目の回答の平均が県外志向と県内志向で違いがあるのかを探る

地域愛着と県外流出分析結果

地域愛着と県外流出の箱ひげ図



それぞれの平均値

群馬県外	3.722818
群馬県内	3.892324

それぞれの差はおよそ0.17

ほとんど差はない

t検定結果

p値 0.0001093 < 0.05

地域愛着と県外流出結論

地域愛着と県外流出志向に関係はあまりない

考えられる原因

サンプル数が大きいためt検定では有意差があるという結果になった可能性が高い。

結果のまとめ

1. 大学や大学院まで進学を希望する学生は、
県外の学校を希望する
2. 女子の方が県内志向の割合が高い
3. 私立文系進路希望は特に県外流出志向が強い
4. 地域愛着と県外流出志向に関係はあまりない

今後の課題

1. 進学に伴う東京流出は群馬県だけの傾向ではないと考えられ、近隣県の状況を確認する必要がある。
2. 就職に着目した更なる分析が必要。

就職希望と回答した2割のサンプルの分析
進学で流出した後の、県内・県外就職別の分析 等

参考

- 『統計学が最強の学問である』（西内 啓）
- 『Rによるやさしい統計学』（山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎）
- 第15次群馬県総合計画
- マイナビ<https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/30738>
- フラットデザインアイコン<https://irec.jp/icons/flatdesign/>

最終閲覧

2018/07/16

ご静聴ありがとうございました

- 質問などありましたら気軽にどうぞ

